

クローバー Clover



編集・発行
君津中央病院
☎0438(36)1071

2024.Dec.
vol.75



気管支鏡検査の様子

理念

私たちは、良質で安全な医療を提供し、地域の皆さまに親しまれ、信頼される病院をめざします。



認定第 JC295-4 号
一般病院 2 (3rdG:Ver.3.0)
(更新審査中)

日本医療機能評価機構とは、市民が適切で質の高い医療を安心して享受できるよう、医療機関の機能を学術的観点から評価する第三者機関です。

基本方針

- 1 患者さんの権利と尊厳を尊重し、患者さん中心の医療を推進します。
- 2 患者さんに信頼される質の高い医療を提供します。
- 3 地域の中核病院として、高度専門医療、救急医療、小児・周産期医療、災害医療および感染症医療を提供します。
- 4 地域連携を推進し、必要とされる医療を提供することで、地域・社会へ貢献します。
- 5 職員の教育・研修を推進するとともに、次世代を担う医療人を育成します。
- 6 チーム医療を推進し、経営の健全化と明るく働きたいのある職場をめざします。

目次

医務局 呼吸器内科	1	患者総合支援センター	5
看護局 8階西病棟	2	君津中央病院附属看護学校	6
感染制御チーム (ICT)	3	インフォメーション	7
がん診療よもやま話	4		

医療技術局

高校生見学会を行いました

去る8月20日(火)に、医療専門職を目指す高校生を対象に見学会を開催しました。夏休み中ということもあり、近隣の高校生17名が参加してくださいました。

進路選択において参考になったとのお声を多数頂いており、今後もこのような機会を設けていきたいと思っております。

また、就職希望者向けの見学は、随時受け付けておりますので、ご興味のある方はホームページの【医療技術職用病院見学申込フォーム】からお申込みください。



大佐和分院からのお知らせ

人間ドックのお知らせ

病気の早期発見及び健康の維持増進を目指し、自身の健康状態を把握することができる人間ドックをこの機会に受診されますようご案内いたします。

実施している曜日

： 毎週水曜日と金曜日 (予約制)

申込方法

： 大佐和分院へ電話(0439-65-1251)または直接ご来院のうえ、お申込みください。

基本検査項目、オプション検査及び費用の詳細については、お問い合わせください。

予防接種について

大佐和分院では、各種予防接種(小児・高齢者肺炎球菌、带状疱疹、HPV、新型コロナウイルスワクチンなど)を実施しております。

各種予防接種を希望される方は、事前にお問い合わせください。

大佐和分院
電話：0439-65-1251

マイナンバーカードを次回からご利用ください

2024年12月2日から

現行の健康保険証の新規発行は終了します



健康保険証として利用するメリット

一人ひとりの過去の薬剤・診療情報などに基いたより良い医療が受けられます

医療機関・薬局に受診等した際、薬剤・診療情報・特定健診等情報の提供に同意すると、ご自身の情報に基づいた診断や重複する投薬を回避した適切な処方や指導などを受けることができます。



高額な医療費が発生した場合でも書類での事前申請や高額な立替が不要になります

突然の手術や入院で高額な医療費が発生した場合でも、事前の申請や高額な立替払いをせずに、高額療養費制度が適用され、一定額以上の支払いがその場で不要になります。



大切なお知らせ

- 本年12月2日の時点でお手元にある有効な保険証は、12月2日以降、**最長1年間(来年12月1日まで)**使用可能です。
- 本年12月2日以降、マイナ保険証を保有していない方には、**お手元にある保険証が使えなくなる前に、申請いただくことなく「資格確認書」**が交付され、引き続き、**医療機関・薬局等を受診することができます。**
- マイナ保険証をお使いの場合は、**マイナンバーカードの券面にある電子証明書の有効期限をご確認の上、期限切れにご注意下さい。**
※券面に記載がない場合は、発行から5回目の誕生日までです。
マイナポータルでも確認できます。

0120-95-0178
5番も通じるうえ、音声ガイダンスにしたがってお尋ねください。
受付時間：平日9時～17時30分
土日祝：9時30分～17時30分

マイナンバーカードの保険証利用についてもっと知りたい方はこちら



診療科の紹介・病気のはなし

診療科の紹介

呼吸器内科の診療と言われると、肺炎が主に思い浮かぶかもしれませんが、以下のように多岐にわたっています。

- ・呼吸器感染症（細菌性肺炎、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症など）
- ・悪性疾患（肺がん、胸膜中皮腫など）
- ・びまん性肺疾患（間質性肺炎）
- ・閉塞性肺疾患（慢性閉塞性肺疾患など）
- ・免疫・アレルギーの疾患（気管支喘息など）
- ・気胸（肺に穴が空いてしぼんでしまう病気）
- ・胸膜疾患（胸膜炎、膿胸など）
- ・肺循環障害（エコノミークラス症候群など）

最近ではさらに、呼吸器感染症のうち新型コロナウイルス感染症による肺炎の対応にもあたっており、地域の要として主に中等症や重症例の対応にあたっています。

このように、急性期の疾患から慢性期の疾患まで幅広い疾患に対応しているほか、当院では県内でも数少ない結核病棟を有し、隔離が必要な肺結核患者を受け入れ、治療を行っているのも特徴です。特に気胸や胸膜疾患で

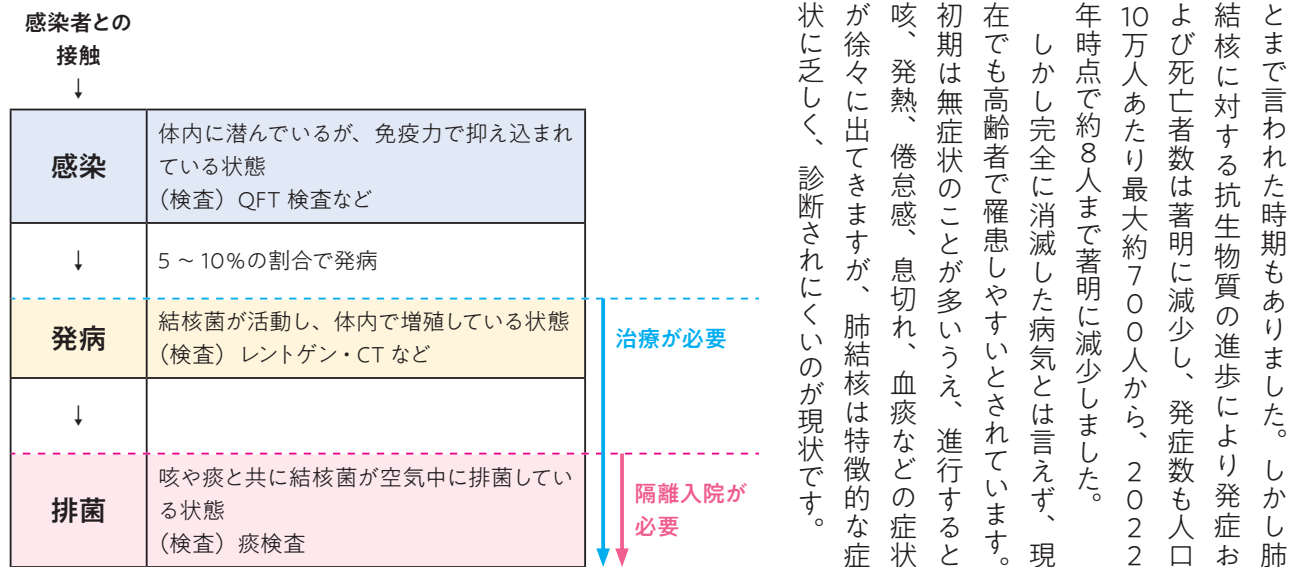
胸腔ドレーンの挿入が必要な症例など、当院で処置を要する症例も積極的に受け入れています。

主には当地域（木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市）の医療機関より紹介をいただく形で診療を行っております。高齢化に伴い需要が多くなっている事情から、1人でも多く収容できるよう、地域連携も兼ねて当院での治療が落ち着き次第、逆紹介や転院などをお願いしています。限られた医療資源を有効活用するため、患者さんにも医療連携に理解および協力をお願いします。



病気のはなし 「肺結核」について

肺結核は、第一次世界大戦あたりの1940年代までは、死者最多で猛威とされ、国民病



診断

表のように、結核菌に感染してから時間を経て、発病、排菌と経過しますが、肺結核と診断された方全員が入院となるわけではなく、指定感染症法に基づき排菌している方が入院での加療となります。

治療

基本は抗生物質を複数種類まとめて内服します。場合によっては注射の併用も行います。毎日欠かさず飲み続けることが重要であり、保健所と連携して定期的に服薬のチェックを行っています。治療期間には個人差はありますが、およそ6ヶ月から1年とされています。



結核菌の写真（ピンク色に染まっている箇所が結核菌）

当院では千葉県内でも数少ない結核病棟を有し、隔離入院での加療を行っています。早期に適切な治療を行えば、大きな後遺症を残さず治癒も目指せる病気です。そのため近隣の医療機関、保健所とも連携して、早期発見・早期診療に努めています。

（呼吸器内科 小柳）

看護局 8階西病棟

病棟のご紹介

8階西病棟は、脳神経外科・脳神経内科・眼科・内科で構成される49床の混合病棟です。

病棟スタッフは、看護師37名・看護補助者3名・クラーク1名・夜間専従看護補助者2名で、「患者家族との信頼関係を構築し、患者の満足度向上を図る」という病棟目標をもとに、日々業務にあたっています。

眼科の入院は白内障の方が多く、当院では外来手術もありますが、一泊二日の入院になる方もいます。「うつすら霞がかかっていたのがなくなつてスッキリした」と喜ばれる方が多くみられます。他には緑内障や網膜剥離等の治療で、約1週間の入院、入院中はうつ伏せの生活が強いられることがあります。

脳、脊髄、末梢神経、脊椎、脳血管系などの障害に関して外科的治療を行うのが脳神経外科、内科的な治療を行うのが脳神経内科になります。

当院での脳神経外科は、脳卒中・脳腫瘍や外傷性疾患、脳神経内科は、脳卒中や髄膜炎、神経難病の方が多く入院されています。いずれも緊急入院され後遺症が伴うことがあります。ご自分の思いを伝えることができない失語や、思うように動けない四肢麻痺などです。不自由なことも多く、思いを汲みながら看護師は対応しています。

このように患者さんの置かれている状況、ご家族の負担も様々となります。少しでも早く退院できるよう、多職種で週1回退院支援カンファレンスを行い、継続したりハビリが必要なのか、自宅に退院できるのか、施設入所が必要かなど、患者さんの状態に合わせた退院先を検討しています。

私たちは、患者さんはもちろん、ご家族の皆さんとの関わりを大切に、安心して入院生活を送ることが出来るよう、日々研鑽して参ります。

（8階西病棟 高崎）



感染制御チーム（ICT）

感染対策に対する基本姿勢

院内感染は元々の治療を目的とした病気とは別に、新たに院内で感染した感染症です。

また院内だけでなく、新型コロナウイルスなどの新興感染症の脅威もあり、感染対策は院内外の両面から求められるようになってきました。当院では職員を含め、病院に出入りする全ての人を感染から守ることを基本姿勢とし、感染管理体制の構築と積極的な取り組みを行うこととしています。

感染対策に関する体制

院内感染対策委員会が設置され、感染予防対策に関する事項を審議、決定しています。委員は病院長をはじめとして副院長、局長などの幹部職員とICT/ASTメンバーで構成されています。委員以外にも新生児センター長や救命救急センター長、外科、小児科などの医師、看護師長、コメディカル職員が登録され、病院全体で取り組む体制になっています。

病院には地域の様々な施設から転院、紹介などで患者さんが出入りします。このため院内の対策だけでは不十分になってきたことから、地域で感染対策に取り組む体制が求められています。現在では玄々堂君津病院、三枝病院、アクアリハビリテーション病院、大佐和分院と連携し、定期的に各施設の感染症に関する情報共有と対策を検討する合同カンファレンスを行っています。このカンファレンスには君津保健所や君津木更津医師会も参加し、病院や診療所と行政が一体となって地域の感染対策に取り組む体制になっています。

（感染制御チーム 堀井）



ICT / AST の紹介

ICT は Infection Control Team（感染制御チーム）の略、AST は Antimicrobial Stewardship Team（抗菌薬適正使用支援チーム）の略です。ICT と AST は同じメンバーで構成され、感染制御医師を中心として感染管理認定看護師、感染制御認定臨床微生物検査技師、抗菌薬化学療法認定薬剤師、事務職員からなる専門家チームであり、病院長直轄の実働部隊として設置されています。

AST という言葉は一般の方には耳慣れないかもしれませんが。近年は抗菌薬（抗生物質）の不適切な使用により、薬の効きにくい耐性菌が増加し、大きな社会問題になっています。国は抗菌薬を適正に使用することで耐性菌の増加を防ごうと取り組んでおり、AST はその最前線で活動しています。

がん診療 連携拠点病院委員会 がん診療 よもやま話

第4回

がんゲノム医療

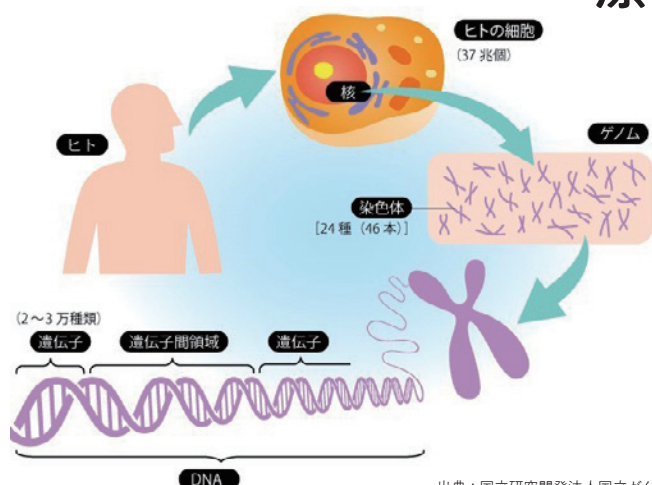
ゲノムとは

私たちの体は、約37兆個もの細胞からなっています。細胞の中には「核」と呼ばれる大切な部分があり、その中に遺伝子を乗せた「染色体」が入っています。ゲノムとは、染色体に含まれるすべての遺伝子と遺伝情報のことです。

染色体を構成する重要な成分が「DNA」で、DNA は4種類の「塩基」と呼ばれる分子のブロックがー列に並んでできている長い分子です。この4種類の塩基の並び（「配列」といいます）が、単語や文章のように決められた意味をもっていて、私たちの「遺伝子」の情報（遺伝情報）を構成しています。

がんは、ゲノムの変化によって起こる病気です。がんは、ゲノムの変化に伴って塩基配列の違いなどが生じ、遺伝子が正常に機能しなくなった結果、起こる病気です。

ほとんどのがんは、喫煙や生活習慣、加齢などが原因となり、正常な細胞内の特定の「体



出典：国立研究開発法人国立がん研究センター
がん情報サービス

細胞」の遺伝子が後天的に変化（変異）することによって、がん細胞が発生します。がんが進行していく際には、がん細胞においてのみ生じたこの遺伝子変異が、進行・増殖のもととなると考えられています。このようながん細胞にだけ起きた遺伝子変異は、次の世代に遺伝するものではありません。

一方で、がん細胞以外の、全身の正常細胞に含まれている遺伝子に、生まれつき存在する変異が主な原因となって発病するがんもあります。これらは、がん全体の5%程度とい

われる遺伝性腫瘍（家族性腫瘍）と呼ばれます。精子や卵子の生殖細胞の遺伝子にも存在する変異なので、親から子へ遺伝する可能性があります。

がんゲノム医療とは

「がんゲノム医療」では、主ながんの組織を使って多数の遺伝子を同時に調べる「がん遺伝子パネル検査（がんゲノムプロファイリング検査）」によって、一人一人の遺伝子の変化や生まれ持った遺伝子の違い（遺伝子変異）を解析し、がんの性質を明らかにすることや、体質や病状に合わせた治療などが行われています。全国にがんゲノム医療中核拠点病院やがんゲノム医療連携病院、がんゲノム医療連携病院が指定されており、全国どこでもがんゲノム医療が受けられるようになることを目指して、体制づくりが進められています。

君津中央病院もがんゲノム医療連携病院に指定されています。

（腫瘍内科 嬉野）

がん相談支援センター *2階 患者総合支援センターが窓口となります
TEL：0438-36-1071 【相談時間】8：30～17：15（土日祝祭日は除く）

お問い合わせ先

●事務員のつばやき

8月1日に第6回地域緩和ケア連携会議を開催しました。

この会議は、がん患者さんが、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療・介護従事者の方と医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討するものです。令和3年度から開催しており、第6回目を迎えることができました。参加人数100名超という大盛況の中、在宅診療うちクリニックの院長重山勇先生に、「地域緩和ケア移行後の多職種連携を考える」という演題で、ご講演いただきました。また、ご参加の皆さまと、当地域でどのような支援が求められているのかを協議しました。活発な意見交換が行われ、皆さまの熱き思いを汲み取ることができたと同時に、次回に向けての改善点も抽出できました。



私は患者総合支援センターの事務職として、本会議を継続できるように手助けすることを通じ、地域の医療に貢献できるという喜びを感じました。また、がん患者さんが、ご病気を持ちながらも住み慣れた地域で生活できるよう、当地域の医療従事者の方の期待に応えることの重要性を実感し、今後も、本会議を有意義なものにしていきたいと存じます。



がんサロン開催のお知らせ

がん患者さんやご家族が病気の悩みや体験などを語り合うサロンを開催しています。

◎利用された方の感想です。

「診断直後に、参加しました。日常生活ではがん治療によってできた不安を共有する場がありませんでしたが、サロンで自分と同じ立場の方々と話し、一人じゃないと思えました。」

「こころの持ち方を話し合うことができ、十人十色で勉強になりました。」

日時	令和6年12月20日(金)、1月17日(金)、2月21日(金) 毎月第3週金曜日 14時30分から16時まで
場所	4階 講堂1 ※予約は必要ありません。費用無料です。
お問い合わせ先	電話 0438-36-1071(代) 担当：ソーシャルワーカー 保坂 まで

君津中央病院附属看護学校

オープンキャンパスを開催しました

君津中央病院附属看護学校は、地域で活躍する看護師を養成する3年制の看護専門学校で、毎年60名の新入生が入学し、看護師国家試験合格を目指して日々学んでいます。

本校では、毎年夏休みシーズンにオープンキャンパスを開催しています。オープンキャンパスは、受験生や保護者へ向けて学校のキャンパスを開放し、実際に見てもらうことによりその雰囲気を感じ、理解を深めてもらうことを目的とするイベントです。今年は8月1日・2日の2日間にわたり開催し、ご家族を含めて214名の方々にご参加をいただきました。当日は、本校の魅力を伝えるべく多くの学生が主体的に参加し、学校説明会、学生交流会の他、妊婦体験・沐浴体験、血圧測定体験、演習モデルに触れてみよう等の体験型のイベントを数多く準備し、盛況のうちに終了しました。

今回オープンキャンパスへ参加した方へのアンケートでは、「学生さんと話しやすく、良い雰囲気が感じられました。」「学生の方がいきいきと学生生活を送られていることが伝わりました。」



お問い合わせ先

君津中央病院附属看護学校事務係
電話：0438-53-8767(平日8時30分～17時00分)



等の感想をいただきました。また、受験生や入学生からは、オープンキャンパスに参加して実際に学生や校内の様子を見て、入学後のイメージを描くことができたので本校への進学希望を決めたとの声も多数寄せられています。

次回のオープンキャンパスは来年の夏の開催を予定していますが、個別の学校見学は随時受け付けておりますので、看護を学ぶことに興味がある方、進路について検討されている方は是非ともお問い合わせください。

〈情報公開制度の実施状況の公表〉令和5年度 企業団が保有する行政文書の開示等の実施状況

開示請求	開示決定	部分開示決定	不開示決定
1件	0件	1件	0件

〈個人情報保護制度の運用状況の公表〉令和5年度 企業団が保有する個人情報の開示等の実施状況

開示請求	開示決定	部分開示決定	不開示決定
114件	114件	0件	0件